

要田の神社

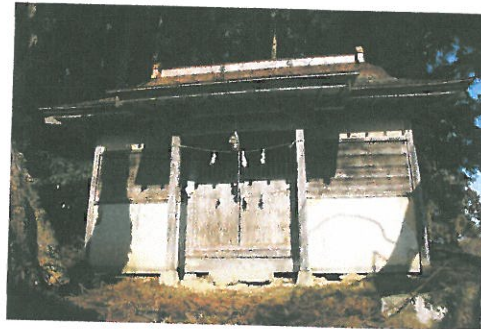


要田まちづくり協会

要田の神社

● 八雲神社(天王さま)

- ・ 摂社・末社 秋葉山神社・山津見神社
- ・ 所在地 三春町大字熊耳字古内 236-3
- ・ 祭神名 建速須佐之男命たけはやすきののおのみこと
- ・ 祭日 旧暦 6月 24日・旧暦 9月 19日
(秋は神主による大祭を行なう)
- ・ 宝物 なし
- ・ 由来



「勸請由来不詳」伝承には、天文年間(約 450 年前)御木沢小山屋敷より、お宮を現在地にお祀りし、小山家の氏神として祀ったと伝えられている。昭和 7 年社殿を改築した。

《建速須佐之男命》

八雲神社の多くはスサノオを主祭神とする神社で、総本山は京都の八坂神社です。疫病や厄災を防ぐといわれ、疫除けの神として・農業の神として信仰されてきました。

● 管原神社(天神さま)

- ・ 摂社・末社 正一位稻荷大明神
- ・ 所在地 三春町大字熊耳字古殿 284
- ・ 祭神名 管原道真
- ・ 祭日 新暦 3月 25日
- ・ 宝物 鏡(管原光永献納と思われる)
- ・ 由来



「勸請由来不詳」伝承には、明治 13 年龍次かのえたつ 庚辰 1 月 22 日奉務神官吉田小構義章の手によって、磐城の国田村郡熊耳邑古殿むらに鎮座。明治 40 年 3 月 24 日再築した。昭和 30 年 1 月 22 日拝殿屋根替え。
《管原道真》

平安時代の学者にして政治家。右大臣までになったが、天皇に対する陰謀の嫌疑をかけられて、大宰府に左遷され、無念のうちに死を遂げた。死後、その霊は天満・天神としてあまがみ崇められて、学問・学術の神として信仰されるようになりました。

＜蠶養神社(蠶養国大神)＞

- ・ 所在地 三春町大字熊耳字古殿 284
- ・ 祭神名 宇賀能魂命うがのうみたまのみこと
- ・ 祭日 新暦 3月 25日
- ・ 宝物 鏡(人見泉守藤原重次献納と思われる)
- ・ 由来

「勸請由来不詳」伝承には、明治 13 年龍次かのえたつ 庚辰 1 月 22 日奉務神官小構義章の手によって藤原公時に磐城の国田村郡熊耳邑古殿に鎮座。明治 40 年 3 月 24 日再築し、昭和 30 年 1 月 22 日には拝

殿の屋根替えをした

日本国史によると、「軻遇突智命、埴山姫命を娶り稚産霊命を生奉る。此の神の御頭より蚕生れ出でし。」とありこれが我が国の養蚕の始まりであるといわれている。蠶養神社は福島県に10数社あり、養蚕という産業を興すために祀られた神社であるともいわれています。

(軻遇突智命)

伊邪那岐・伊邪那美命が最後に生んだ神。火の神で、軻遇(迦具)は輝くという意味で、総じて火を司る神である。鎮火・火防の神として、全国の秋葉神社・愛宕神社で信仰されている。

(埴山姫命)

田畑の土や陶器(祭祀に用いる特殊な器)をつくる粘土などの土をつかさどる神で、農業、陶磁器製造業、造園業、土木関係の職業などに縁の深い神様です。

(稚産霊命)

神名の「ワカ」は若々しい、「ムスビ」は生成の意味であり、穀物の生育を司る神である。五穀・養蚕の神として信仰されている。

《宇賀能魂命》

「ウカ」は穀物・食物の意味で、穀物の神とされています。農耕民にとってもっとも大切な稲のほか五穀を守り守護する神です。農耕神・屋敷神として信仰されてきました。

● 古志王神社

- ・ 摂社・末社 秋葉山神社・金比羅大権現・弁財天
- ・ 所在地 三春町大字熊耳字神山 244-2
- ・ 祭神名 宇迦之御魂命
- ・ 祭日 旧暦9月9日
- ・ 宝物 なし
- ・ 由来



「勸請由来不詳」大小のお宮がある。伝承によると、小さいお宮は約370年以前に祀られたものといわれている。大きいお宮は明治初年ころ、怪我をした子供がお参りしたところ、その怪我が治ったので、お宮を造って奉納したといわれている。現在のお宮は、昭和39年10月改築した。

《古志王》

古志王は元々寒地の神であったと見られています。神社の戸の隙間または裂け目に赤土を塗り、身体にも赤土を塗りさえすれば冬になっても皮膚は凍傷にならないと言い伝えられている。

《宇迦之御魂神》

名前の「ウカ」は穀物・食物の意味で、穀物の神であり、農耕の神として、また、五穀を司り守護する神として信仰されてきました。

<産土神 (おぶしなさま)>

産土神とは、ある人が生まれた土地の神のことで、その人の一生を守護する神とされる。産土などとも表記し、文字通り「生まれた土地」に由来する神である。そのため、初宮詣を産土参り・産土詣と呼ぶこともある。現在ではほかの地へ転居すると、転居先の氏神の氏子となるが、産土神は転居と無関係であって、生涯変わることがないといわれています。

● 笹山神社

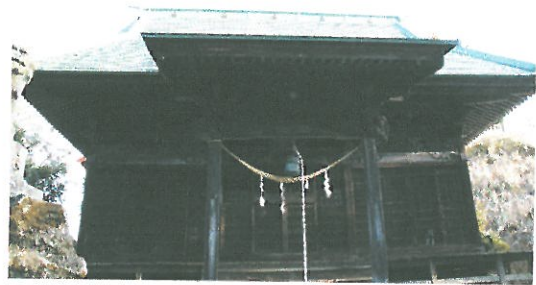
- ・ 所在地 田村市船引町大字笹山字仲之内 456-2
- ・ 祭神名 たけはやすさののおのみこと
建速須佐之男 命
- ・ 祭日 7月 24日
- ・ 宝物 なし
- ・ 由来



「勸請由来不詳」伝承には、昔より厄除けの神として伝えられている。その当時村には、厄病が続いていたので、村の若い者によって神輿のご巡幸が行なわれ不思議に悪疫がなくなった。今でも疫病や厄災を防ぐといわれ、また農業の神として厚く信仰されている。明治 25 年に改築。昭和 3 年には、当時の社掌藤原寅治が石鳥居を奉納している。昭和 27 年 11 月萱屋根を亜鉛版に葺き替え、廻廊を増設した。昭和 41 年 3 月 16 日強風で破損した伍郎並びに拝殿前方を修繕した。

● 三輪神社

- ・ 所在地 田村市船引町大字笹山字寺屋敷
- ・ 祭神名 おおもものぬしのみこと
大物主之 命
- ・ 祭日 11月 1日・2日
- ・ 宝物 なし
- ・ 由来



「勸請由来不詳」伝承には、治承 4 年(1180)大和国三輪大神の分霊を明神山(現在の笹山字立石付近)に祭祀したと言う。これは笹山城(館)の南東巽の守りとして勸請したものと伝わる。その後土地の改革により現在地に移転した。明治 15 年本殿並びに覆殿改築、明治 31 年拝殿新築、大正 11 年磐越東線の線路脇になった為、トタン屋根に葺き替えた。大正 11 年村社に列せられた。拝殿は木造入母屋造り、本殿は石積基壇の上にある切妻の覆殿の中に祀られてある。附属建物は神楽殿と宝蔵庫がある。

明治 13 年頃当地に悪疫が流行し、次々と人々は病に侵され苦しみ倒れていった。その時悪疫退散、五穀豊穡を祈願して、佐藤右伝次が瀬川の神職国分大隈に音曲、舞の振付け等を習い、若い人たちと共に楽器や衣装を新調して奉納したのが始まりと伝えられている。その後佐藤峯政氏も国分大隈に小神楽(12 座)、大神楽(36 座)等を習い伝え、今も十余命の人達により毎年 11 月 1 日、2 日に三輪神社、7 月 24 日に笹山神社に奉納している。昭和 10 年頃までは三匹獅子も奉納されていたが今はない。

● 鹿島神社

- ・ 所在地 三春町大字庄司字西之内 309-2
- ・ 祭神名 たけみかづちのみこと 武甕槌 命 ・ うかのみたまのみこと 宇迦御魂 命 ・ 大山津見神
- ・ 祭日 新暦 10月 9日
- ・ 宝物 なし
- ・ 由来



- ・ 「勸請由来不詳」伝承には、佐藤家の先祖佐藤忠信が、三春城主田村氏に仕える折り、應永年間福島市飯坂「医王寺」より移し鎮座したと伝えられる。佐藤右京の碑には元和 4 年(1618)と記してあ

る。明治12年お宮建立。明治24年9月9日神器奉納。昭和26年9月9日鳥居奉納。

《武甕槌命》

雷神・刀剣の神・弓術の神・武神・軍神として信仰されている。鹿島神宮(茨城県)及び全国の鹿島神社で祀られている。鹿島神宮の主催神である。

《宇迦御魂命》

名前の「ウカ」は穀物・食物の意味で穀物の神であり、農耕の神としてまた、五穀を守り守護する神として信仰されてきた。

《大山津見神》

大いなる山の神という意味で、山・海の両方を司る神。酒造りの神ともいわれている。海上守護の神・武門の神として信仰されてきた。山嶽の守護神としても祀られている。

● 春日神社(春日さま)

- ・ 所在地 田村市船引町大字成田字白光内
- ・ 祭神名 あまこゝろねのみこと
天児屋根命
- ・ 祭日 11月1日
- ・ 宝物 なし
- ・ 由来



「勸請由来不詳」伝承には、永正年間(1504~1521)ころ三春藩主田村政頭の命により橋本信季が奈良春日大明神を勸請し隆石山の峯に祀ったと伝えられている。明治に郷社となり、その後大正になって村社に列せられた。木造銅版葺で向拝の彫刻は当地の彫刻氏大内某の作で見事である。拝殿は廻廊と向拝がある。拝殿は入母屋造、付属社としては神楽殿と宝蔵庫がある。むかしは鹿子祭の式というのがあったと伝えられている。

● 成田神社(地神さま)

- ・ 所在地 三春町大字北成田字広畑
- ・ 祭神名 おおとこぬしのみこと はにとひめのみこと
大地主命・埴土毘売命
- ・ 祭日 8月25日
- ・ 宝物 なし
- ・ 由来



「勸請由来不詳」

地区では地神様として信仰されている。昭和54年には出雲流神楽「太々神楽」が復活した。

《大地主命》

田畑をつかさどる神。大地主神の田畑が御年の祟りで枯れそうになったので、大地主神が白馬・白猪などを供えて御年神を祀ると苗は再び茂ったという説話があるという。

● 津島神社(天皇さま)

- ・ 所在地 三春町大字北成田字七郎内
- ・ 祭神名 たけはやすきのおみこと
建速須佐之雄命
- ・ 祭日 7月27日
- ・ 宝物 なし



- 由来

「勸請由来不詳」伝承には、旧牛頭天王を、明治2年津島神社と改称する。

明治の宗教政策「神仏分離」によって、牛頭天王を祭神としていた神社に対しては、すべての祭神をスサノオ神に変えるか、牛頭天王を除外することを求めた。愛知県津島市に鎮座する津島神社は、旧称牛頭天王社といい、天王社の総本山である。

《建速須佐之雄命》

神名の建と速はともに神威を称えた語であるといわれる。須佐は進む、荒(すさ)ぶるなどのスサである。荒ぶる性格が、逆に災いを祓う神としての信仰を生んだことが、疫病や厄災を防ぐといわれ、疫除けの神として・農業の神として信仰されてきた。

- 北御坐神社

- 所在地 三春町大字北成田字七郎内
- 祭神名 あめのみなかのみこと たかみむすびのみかみ かむみむすびのみこと
天御中命・高皇産霊神・神皇産霊命
- 祭日 10月11日
- 宝物 なし
- 由来



「勸請由来不詳」伝承には、慶應2寅年4月1日宇多小高村より遷祭する。旧神号妙見宮、明治2年4月中頃北御坐神社と改称する。明治の宗教政策「はいぶつぎんじやく廢仏毀釈」によって「妙見宮」、つまり妙見菩薩をお祀りしていたお寺はすべて取り壊され、ご本尊妙見大菩薩も取り去られ、妙見信仰という仏教の信仰が否定されました。代わりに天御中主神が祀られるようになったといわれています。妙見社系の神社で祀られています。

《天御中命》

天(高天原)の中央に座する主宰神という意味で、宇宙の根源の神であり、宇宙そのものであるともされています。

《高皇産霊神》 《神皇産霊命》

産霊(むすび)は生産・生成を意味する言葉で「創造」を神格化した神。「神皇産霊命」は女神で「高皇産霊神」と対になって男女の「むすび」を象徴する神ともいわれています。

- 熊野神社

- 所在地 田村市船引町大字要田字宮前
- 祭神名 いざなぎのみこと いざなみのみこと
伊邪那岐之命・伊邪那美之命
- 祭日 11月1日
- 宝物 なし
- 由来



「勸請由来不詳」伝承には、天平元年(729)市川左門が要田地内の滝ノ入に寺を設け勸請、弘仁9年(818)現在地に遷座したという。応永30年(1423)観音山普門寺を称したとあるが寺は現在ない。拝殿は木造廻廊向拝あり、本殿は石積基壇の上であり方形の覆殿の中に祀られている。附属建物は宝蔵庫一棟ある。また、この社には未完成の石段がある。昔この地を支配しようとしたアマノジャクが信者と一夜のうちに石段を造る事を約束したが、東南に祀られてある麓山神社の鶏が夜中に鳴いたため、夜明けと思ひ仕事を中途にして立ち去り、それからそれに手をつけると種々の禍があるの

で、そのままになっていると今も言い伝えられている。

『神社とは何か』

神社を知らない日本人はまずいないであろうが、あらたまって「神社とは何か」と問われると、返答に窮するであろう。その理由のひとつは、神社には二つと同じものが存在しないからである。十人十色といわれるように、神社もそれぞれに違っている。例えば、誰でもよく知っている八幡神社を例証すれば、どの神社も祭神は同じであるが、立地条件や沿革、由来、祭り、あるいは祭る人々はそれぞれに異なっている。(神社の由来がわかる小事典)

- ・参考資料 「三春町史」「三春町文化財調査員記録(昭和 55 年)」「船引町の神社と芸能(昭和 56 年)」「神社の由来がわかる小事典」「日本の神々としきたりがわかる神道」「その他の資料」

編集 平成 23 年 2 月
要田まちづくり協会